

コロナ禍での各園の取組と工夫

令和2年度にコロナ禍で、園として意識・工夫した面、頑張った所をまとめました。どの園も、感染予防対策として、マスク、検温、消毒、換気、社会的距離をとることなど、可能な範囲で最大限努力されておられます。こうした取組に対して、就学前教育・保育の質の向上推進委員からご意見をいただきました。

西脇市内認定こども園・幼稚園

(1) 日々の感染予防や対策面

①登降園時

【検温】家庭、玄関で非接触型体温計による検温、視診。健康観察カード記入提出。

【園児の受け入れ方や降園方法】密を避けた受け入れ場所、方法の検討。保護者のマスク着用（検温）や手指消毒。降園時間の混雑をさけるため、時間差を依頼した。

②給食時

テーブルに飛沫防止ガード。配膳するときは手袋着用。机、トレイの消毒の徹底。

2歳児までの保育者は、別室で食事。他の保育者は、子どもから距離を取りアクリル板を置く。飛沫防止パネルを立てる。

③保育中のマスク着用について

保育者は、マスク着用、子どもたちの前では外さない。食事のマナーやかむ姿を見せたい時、また絵本読み聞かせや歌を歌う時には、フェイスガードを利用した。

④集会

室内で全学年が集まる機会はできるだけ避け、集まる時は短時間で終わらせた。

⑤消毒・換気 等

コロナ対策マニュアルを作成し、教職員へ徹底した。

【消毒】ドアノブ、玩具（消毒しにくい布製の玩具の使用は控える）。園内や室内の備品。園舎内の床や園児が手で接触する所 等。

【手指消毒】園児、保護者、職員、来訪者の徹底。園児に丁寧な手洗いの励行。

【換気】換気の徹底。時間を決めた換気、常時窓を開ける、空気清浄機を使用等。

◎ 就学前教育・保育の質の向上推進委員からのコメント

・それぞれの園で、できうる限りの対策がなされています。マスクの使用や検温、消毒等、基本がしっかり守られています。そこに対策マニュアルの作成が各園で行われており、全職員で理解・徹底することが一番の予防になります。どの園でも最大限努力をされておられ、安心して子どもを通わせることができると思います。

・通常保育に加え、備品等の消毒作業が増えていることと思いますが、子どもの感染予防のための取組が十分に行われていることが伺えました。また、教職員の方も感染しないよう、また感染源とならないように、保育時間以外の行動にも留意し、子どもの安全を第一に考えて保育されていることが分かりました。

- ・子どもはマスクをしなくて生活していますが、子どもとの触れ合いを考えると密を避けられない状況の中、保育者は夏の暑い時期もマスクを外さず、子どもに接しておられます。クラスによっては、子どもが大人の口元を見て学べるような工夫として、前に立つ保育者がフェイスシールドを用いているところもありました。
- ・密にならずに保育をすることは不可能な中、各園で徹底した対応をとっていただいていることに感謝します。ひとたび園でコロナ感染者が発生するとクラスターは避けられないと考えます。今後とも感染予防を徹底していただき、園児・職員・保護者が安心して過ごせる環境作りをお願いします。
- ・それぞれの園で、日々、十分な対策をとって保育を進めておられます。子どもは互いにかかわりあう中で、人間関係を学び、ともに育ちます。そのため、育ちに関わる部分では密になることは避けがたいですが、それ以外の登降園時等においては、密を避け、消毒・換気など感染予防策を最大限努力されています。

(2) 行事の見直しやもち方の工夫

①運動会

- ◎日数を増やした。(平日2日間、平日と土曜日 等)
- ◎時間を短縮。年齢ごとに時間を分ける、保護者が密にならない工夫 等
- ◎種目・演技内容の検討。子どもたちの活動を中心に考え、必要性や目的を第一にプログラムを変更した。
- ◎運動会の参加年齢・参加方法の検討や変更 等
 - ・2～5歳児で実施。
 - ・3歳児以上で実施し、0～2歳児は10月に、運動遊び参観を行った。
 - ・0～2歳児は、平日に年齢ごとに遊戯室で実施。(熱中症予防にもなった)
- ◎保護者の参観人数制限、密にならない工夫
 - ・種目に応じて移動、観覧シールの配布。・観覧場所には間隔パネル設置。
 - ・保護者席指定。・場所変更(園庭実施)、参加人数制限(席のくじ引き)
- ◎感染症予防の徹底。(検温・手指消毒・マスク・参加者事前把握・参加証・名簿記入)
- ◎その他
 - 0～5歳児の運動会の取組の様子を編集し、保護者のみ観覧可能動画にして配信した。

②参観日

- ・時間を分け、学年分散で実施。学年入れ替えの時は動線を考え、できるだけ保護者が密にならない工夫をした。
- ・人数制限、参観時間を配慮して実施。(事前に参加者把握)
- ・オープン保育(造形活動公開)は、外廊下の参観。(保育室入室禁止)秋のお店屋さんごっこの参観は全学年から5歳児のみとした。
- ・お店屋さんごっこの参観は、中止。園児のみで実施。
- ・密を伴う行事は、少人数の時間差で開催。保護者参観は、なしを続けている。

③音楽会

- ・保育活動として必要だと考え、保護者観覧なしで実施。取組をDVDで配布。
- ・感染リスクを少なくするよう内容・時間、保護者の参観方法等検討。
- ・曲数を減らし、学年限定公開、参観人数制限、換気と参観者の入れ替えの時間を設定、座席の消毒。音楽会の映像を録画して配布。

④外部からの訪問

- ・最小人数の来園、手指の消毒、検温、マスク着用の徹底。コロナ感染予防のため、中止したのものもある。
- ・外部講師等には検温・マスク着用を徹底。園児のみの指導に変更した。

⑤その他の工夫

- ・例年なかった活動（ハロウィン）を地域の方の協力のもと取り入れた。すべて我慢して中止するのではなく、子ども達がわくわくする楽しい活動になるよう考え工夫した。
- ・園外保育は、泥田遊び、じゃがいも掘り、いも掘り、紅葉狩り等、地域の自然を活用・工夫して取り入れた。
- ・お泊まり保育の中止、サマーフェスタ(お楽しみ会)に変更し楽しんだ。
- ・全ての行事を見直し、密集を避けるため分散、限定、縮小を常に頭において考えた。その一方で、ただ行事や活動を減らすのではなく違う方法や取り組み方を検討した。

◎ 就学前教育・保育の質の向上推進委員からのコメント

- ・これまでにあった行事のもち方について、密にならない、接触をなるべく避けることができるよう、さまざまな工夫がなされています。保護者の方に見ていただくのが一番ですが、子どもたちの育ちを保障するためという本来の目的に立ち返って、できる範囲で子どもたちが活動し、楽しめる行事になっています。運動会も、無理に乳児から全員揃って実施するのではなく、年齢ごとに適切な形に落ち着いたのではないかと思います。他の行事も、子どもたちがねらいをもち、主体的に進められるような内容に変化していっているのが窺えます。従来通りではなくとも、本当に子どもたちを育むための行事になっていけばと期待しております。
- ・行事は園児にとって大変楽しみにしているものであるとともに、成長のきっかけにもなるものであると考えます。それだけに各園でその実態に合わせ、何ができるか、どんな方法があるか等、様々な工夫をしながら行事を実施していただいていること、敬意を表します。前例踏襲ができない中、大変な1年であったかと思いますが、この1年の取組は、今後コロナの収束が遅れても活用できるのではないかと思います。職員の皆さんの多忙感が少しでも軽くなることをお祈り申し上げます。
- ・日頃の保育に加えて、行事からも子どもたちが大きく成長することを先生方が認識しておられます。ただ、従来のような形で行事を行うことにより、参観者が増え感染リスクが高まることも十分認識されておられました。行事を中止することは簡単なことですが、どの園も行事を中止するのではなく、取り組みの方法を変え、人数を制限する等、子どもたちに従来の行事に代わる同等の体験ができるような新たな遊びを考えておられます。その他、時間の工夫、人数の制限、期間の変更等、多くの工夫が行われていました。

- ・行事の見直しやもち方についても多くの検討と工夫・配慮がなされています。子どもが楽しみにしているだけでなく、保護者からすると我が子の成長を楽しみにされている中で、苦渋の決断・判断がなされたことと思います。感染予防をしながら、子どもの育ちを保障し、保護者の参加方法の工夫を考えられ、新しい生活様式に基づく行事の模索する一年であったと思います。日々の業務が多忙な中、種々検討されたことを次年度にも生かしていただければと思います。

(3) 保育環境や保育の工夫・教職員の資質向上

【保育環境・保育の工夫】

- ・休園明けは、園児の状態を例年の4月と捉え（実際はそれより心身の状態は良くなかった）あせらず向き合う事、友だちと十分遊ぶ時間を確保する事を意識して保育を進めた。
- ・自粛期間中手作りおもちゃを増やし、コーナー遊びを充実させ、より子どもたちが楽しめるように準備した。
- ・お店屋さんごっこを保護者参観から園児のみに変更。1日の園児の交流を限定した分、遊びの日数を増やし組み合わせを変えることで、感染リスクを抑えるとともに異年齢交流・保育を楽しめる工夫を行った。
- ・夏のプールは行わず、どろんこ遊びや水遊びにした。

【資質向上】

- ・職員の資質向上のために、共通の保育の本を読み研修の機会を設けた。
- ・自粛期間中は職員間で園内研修を取り入れ、各年齢や全体で話し合える時間をもった。
- ・研修に関しては、年度後半からリモートの研修が入り、環境を整えることで、移動時間の制約が少なくなり、希望する研修が受けやすくなった。
- ・クラスの様子の話し合いや今後の保育をどうするか等の会議を多くもった。感染予防をしながら、子どもたちが喜ぶ、楽しむ保育を考えた。

◎ 就学前教育・保育の質の向上推進委員会からのコメント

- ・従来の保育の方法に加え、感染リスクが低下するような保育の方法を考えられておられました。また、子どものおもちゃについては、消毒しやすいような素材のものを新たに保育室内に入れる、消毒・廃棄しやすいような素材に作り替える他、工夫が見られました。手作りのおもちゃも以前にも増して取り入れられているところも多く見られました。
- ・コロナは園児にも何らかのストレスを与えていることが考えられます。このストレスを軽減し、日常に近づけるためには、園児に寄り添い、園児の目線で保育を考えていくことが必要かと思いますが、各園でしっかりと対応いただいていると感じました。研修に関してはコロナ対応で時間が割かれる中、可能な限り取り組んでいただいていると感じました。リモートなどで各園の取組を交流していただき、積極的に取り入れていただくことも資質の向上につながると考えます。

- ・自粛期間中も、園では止まることなく環境の整備に時間を使い、子どもたちを迎える準備がされていたのが頭の下がる思いです。困難な状況の中でも、研修が絶え間なく行われており、園内研修や会議でいかに子どもたちが楽しく育っていく保育を模索されています。自粛や行事の中止が相次ぐ中、立ち止まって考えることでピンチをチャンスに変えられた園が多いのではないのでしょうか。保護者や地域との連携も考えて、今後は伝える工夫をしていくことが大切だと思います。
- ・自粛期間中から、休園明けは、例年とは違う保育のあり方になること見通して、保育環境・保育の工夫をしたり、職員の資質向上に向けた研修を行ったりして、よりよい保育のために頑張っておられます。それが、その後の保育に活かされ、今に至っておられると思います。

(4) 保護者との連携の取り方

- ・自粛期間中は、週1回のポストインや電話連絡。ポストインの内容は、園での活動に結び付けられるものや、生活が不規則にならないようにする為のものなど、発達段階に応じ学年ごとに工夫した。
- ・コロナ禍による子どもや保護者の不安が高まらないよう、例年以上に『話す・聞く』を意識し、PTAと協力しながら保護者の声を聴き、応えていった。
- ・各家庭と電話連絡を取り、保護者と直接話す機会を設け、家庭での様子を聞いたり、園の様子を伝えたりしながら状況を把握することに努めた。子どもや保護者へのメッセージを書き込んだクラス便りの郵送を行い、保護者の不安を取り除けるように努めた。
- ・保護者に日常の園の様子を知らせるために、ドキュメンテーションの張り出しを駐車場の掲示板に行い、保護者の安心感確保に努めた。
- ・よい子ネットの保育配信の機会を増やし、家庭での会話が弾むように工夫した。
- ・自粛期間中、保護者へのお知らせをできるだけ出し、各家庭への電話連絡も行った。
- ・自粛期間中電話連絡をし、保護者と話したり子どもと話したりして、変わった様子が無いか確認した。
- ・自粛期間中、保護者への発信は、メール・紙媒体のたより・玄関前の掲示等、理解浸透を得るように何度も行った。

◎ 就学前教育・保育の質の向上推進委員からのコメント

- ・自粛期間中も、保護者の方々や子どもたちが不安にならないよう、連絡を途切れさせないように、各園で努力されています。電話で直接話したり、お話を聞いたりする等、保護者の不安の軽減につながったのではないかと思います。また、参観を含んだ行事が縮小され、実際の子どもの姿をお伝えできるように、これまで以上におたよりやドキュメンテーションを頑張っておられたと感じます。今後もこのような連携を続けていただきたいと思います。
- ・コロナ禍では特に保護者を安心させることが大切です。コロナによって私たちの生活には様々な制限がかかっていますが、各園の取組はコロナ禍だからこそやらなければならないコミュニケーションによって、保護者からの信頼を深めるものとなっていると感じました。アナログの暖かさやデジタルの便利さなど、その特性を活用して、今後とも連携を深めていってほしいと思います。

- 日々の保育のことについては、午睡時間の短時間を利用して、連絡帳に記入し保護者と連携を密に図れるようにされておられるところが多くあります。それに加え、検温や体調不良の申告、職場での感染者の状況把握など、子どもの安全を守るために必要な事項を、保護者からの聞き取りに抜かりがないよう、配布物等で周知されていることが分かりました。また、保護者も不安な中で子育てされていることを察知し、保護者の不安を取り除く工夫として、子どもが楽しく保育を受けている様子や、家庭での遊びが充実するようなことを、様々な方法で発信されておられました。
- 保護者と子どもが安心して園生活をおくっていくためには、保護者との連携そして、保護者とともに子どもを育てていくという「共育」の視点を持つておくことが大切です。とくに自粛期間中は、保護者の不安感も増大し、子どもの生活リズムや経験が園に通っているときとは違うものになっていたことと思います。その中でも、保護者と連携を図り、情報発信、情報共有を意識的に工夫されています。また、通常の保育においても、ドキュメンテーションの張り出しを行うなど、保護者へ子どもの育ちや保育内容を伝えるなどして、保護者への情報発信を工夫し、安心感・信頼感につながる配慮をされています。